

発表日：2025 年 10 月 21 日

ニセコ町発のブランドコットン「^{ニセコ スノー コットン}NISEKO SNOW COTTON」

北海道初・日本最北の試験栽培に成功

ニセコ町（北海道ニセコ町、町長：田中健人）が「商工観光魅力アップ事業」として支援している高橋農園（北海道ニセコ町、代表：高橋悠太）が、栽培困難と考えられていた北海道で純国産コットンの露地栽培に成功しました。

商業的なコットン栽培は北海道で前例がなく、露地での栽培は日本最北。これまで日本最北と言われていた宮城県から大きく更新しました。世界有数のスキーリゾートで作り出すパウダースノーのような「NISEKO SNOW COTTON™（※1）」で、ニセコ町の新たな魅力を発信します。

かつて日本で栄えたコットン栽培ですが、現在国内でのコットン自給率はほぼ 0%と推定されており（※2）、純国産コットンの希少性が高まっています。近年の気候変動もあり、長年栽培が難しいとされてきた北海道でも、ニセコ町で長年培ってきたメロンの栽培技術を応用し、コットンを作ることが可能になりました。

高橋農園は、町の特産品であるメロンなどを生産・販売。2023 年よりハウス・露地でのコットンの試験栽培を開始し、3 年の歳月を経ていずれの試験栽培も成功。創業 100 周年となる 2026 年には、町内事業者と連携したコットン商品を町内約 5 店舗でリリース予定。今後はワークショップや収穫体験イベントを企画するなど、コットンを通じた地域活性化と持続可能な農業に取り組み、町の新たなブランド造成に挑戦します。



【「NISEKO SNOW COTTON™」試験栽培成功までの歩み】

2022 年	・東北のコットン栽培視察(有限会社イーストファームみやぎ)
2023 年	・1 回目のコットン試験栽培(ハウス約 40 株・露地約 80 株) →ハウス栽培成功・露地栽培は失敗に終わる
2024 年	・2 回目のコットン試験栽培(ハウス約 40 株・露地約 100 株) →ハウス栽培成功・露地栽培は失敗に終わる ・関西のコットン栽培・地域活性化のモデルケース視察 (タビオ奈良株式会社・かこっとな株式会社)
2025 年	・3 回目のコットン試験栽培(ハウス約 40 株・露地約 200 株) →ハウス・露地栽培ともに成功、露地栽培の日本最北記録を更新する



▲ハウス栽培では 1 株に約 50～60 個、露地栽培では約 20 個～30 個のコットンが実り、ふわふわで上質なコットンを収穫予定です。10 月下旬には初の収穫を予定しています。



▲最初の取り組みとして、ニセコのアロマクラフトブランド「HIKOBAYU」と、ニセコの特産品であるお米を生産する「ニセコ猪狩農園」と連携した商品をリリース予定(写真は試作時のもの)。スタートアップでは町内 5 店舗の委託販売からスタートし、コットンを通じた地域活性化を目指します。

(※1)「NISEKO SNOW COTTON™」は、現在商標登録出願中です

(※2) 日本オーガニックコットン協会

<https://joca.gr.jp/about-organic-cotton/#cultivation-history>

【農園概要】

高橋農園

〒048-1552 北海道虻田郡二セコ町字宮田 107 番地 1 (代表：高橋悠太)

HP : <http://www.takahashi-farmette.com> Email : info@takahashi-farmette.com

事業内容：二セコメロン・じゃがいもなど、農産物の生産・販売を行う



【取材につきまして】

* 2025 年 10 月下旬に収穫を予定しており、報道関係者の方へ収穫の様子を開放いたします。

* 取材にお越しいただけない場合、収穫の写真・動画（インタビュー映像あり・4K 画質 MP4 形式）をまとめた報道パックをご用意可能です。

報道関係者様のお問い合わせ先

二セコ町 企画環境課広報広聴係

〒048-1595 虻田郡二セコ町字富士見 55 番地

TEL 0136-56-8837、FAX 0136-44-3500、E-mail koho@town.niseko.lg.jp